

「十字架に向かってエルサレムへ」

使徒21章8節～15節

■パウロの人生を通して

パウロの宣教旅行からも見受けられるようにパウロの人生は、試練と苦しみとの連続でした。特にパウロは自分の、過去の失敗がパウロ自身の苦しみでした。そしてパウロは今後自分がどのような道への道を進んでいくのかを理解してました。そこでパウロは、弟子たちに「神様の恵みと、御言葉にあなたがたを委ねる」と伝え、自分は神ではない。自分が伝えた言葉で、人々が生きられるなんて思わない。そう繰り返して弟子たちに伝え続けます。その様な中、医師でありこの使徒の働きに著者でもあるルカは「あなたの中にイエスキリストを見た、だから人々は、あなたの言葉からイエスキリストを感じる」と伝えパウロが今まで語ってきたこと、パウロの体験を手紙にするように説得しました。私たちクリスチャンの生き方は、これにつきまします。私たちは何もできません。しかし私たちが、過去に起こした失敗、痛み、様々な苦しみをイエスキリストの方法で乗り越えていく時にその姿を通して回りの人はイエスキリストをみるのです。

■試練は本物を見出し真理を見出す

ゴルフボールにはデコボコがついています。このデコボコは一つ一つの大きさが違います。それはゴルフボールが飛びすぎない為なのです。これは一見逆行しているように見えますが、とても理にかなっています。もしデコボコでなくツルツルのボールだと、空気抵抗が出来て大きな渦が出来るので、ボールが蛇行してします。空気抵抗を考えて、ボールにディンプル(デコボコ)を作っています。そうすることでボールは真つぐ飛びます。私達の人生も、すべてが完璧で幸せな人はいません。色々な痛みや問題を通して傷つき苦しみ、今日まで来ました。そのおかげで私達に、ディンプルができました。このディンプルが大切です。パウロの人生もデコボコでした。しかし、彼はそのディンプルを神様に従って生きる決断をし実行することで多くの人にイエスキリストを表して行ったのです。パウロは各地に同労者を得ます。試練は本当の友達を与えます。そして試練の中で本物を見出し、それは真理を見出すことに繋がります。パウロは過去の失敗という試練の中で真理を見出していきます。私達の人生がまずければまずいほど、イエスキリストが十字架にかかったのかという事が良くわかります。試練は、私達に大きな力を与えてくれます。

■御霊からの導き恐れではなく備え

21:11 彼は私たちのところに来て、パウロの帯を取り、自分の両手と両足を縛って、「『この帯の持ち主は、エルサレムでユダヤ人に、こんなふうには縛られ、異邦人の手に渡される』と聖霊がお告げになっています」と言った。21:12 私たちはこれを聞いて、土地の人たちといっしょになって、パウロに、エルサレムには上らないよう頼んだ。21:13 するとパウロは、「あなたがたは、泣いたり、私の心をくじいたりして、いったい何をしようとしているのですか。私は、主イエスの御名のためなら、エルサレムで縛られることばかりでなく、死ぬことさえも覚悟しています」と答えた。

エルサレムは、異邦人の地ではありません。パウロはこの聖霊のみ告げを受けてこれはエルサレムで終わりでないと分かっています。そしてこれから異邦人の地へ売られて行く事を理解します。しかし弟子たちは、パウロを引き止めます。私達も聖霊に語られた時、せっかく聞いているのに誤った決断をしてしまう事があります。そこでパウロのしていた事は、備えなでした。彼が備えたことを見て行きましょう。使徒21章20節～の記事をみると正しい事をしてたパウロをユダヤ人たちが追いかけてきて違法な手段で裁こうとします。この時パウロは、ステファノを思いかえします。パウロは、人生の中でイエスキリストに対する迫害と、自分がやってきた道をこのエルサレムでもう一度通ることを思っています。ここで塗り替える決断をしていきます。クこれがリスチャンの生き方です。パウロは自ら蒔いた間違った種を自らの生き方によって全て、違うものに書き換えようとしたのです。ここから私達も学ぶのです。私達が過去どんな失敗をしてもいいのです。しかし過去に犯してきた誤った決断を塗り替え、真逆の方法を選んでいくのです。悔い改めとは過去の誤った生き方の向きを180度変えるという事です。もし悔い改めによる赦しがないのならキリストが十字架に掛かった意味は全く無駄になります。イエスキリストは、私達のために、過去の全ての過ちと、傷ついた痛みを取り去る為に、十字架に向かいました。だから私達は生き方を変える決断をすることができます。パウロも苦難と暴言と侮辱と雪辱に耐えながら、そして自分の心と戦いながら、なんとか過去に生きた道とは、反対の道を生きようと努力します。イエスキリストを裏切り続けたパウロがイエスキリストに従う姿を、ルカは詳細に使徒の働きに書き記したのです。まさにパウロがこれから通る道のりはイエスキリストが通った道十字架の道のようにあります。

■十字架の道行き、備えによる行動

30節・そこで町中が大騒ぎになり、人々は殺到してパウロを捕らえ、宮の外へ引きずり出した。そして、ただちに宮の門が閉じられた。彼らがパウロを殺そうとしていた時、エルサレム中が混乱状態に陥っているという報告が、ローマ軍の千人隊長に届きます。ローマ兵は暴動を抑えられなかったら死刑、ユダヤ人も暴動を起こしたら死刑。どちらも命がけですが人の愚かさはこういう事です。人々はみ憎しみ、嫉妬という言葉一つによって命までかけて一人の人を殺そうとします。これが人間であり愚かな生き物です。私達が今、熱心に頑張っていることは、もしかしたら私達の人生を無にしてまでも、やろうとしていませんか？私達のもっとも大事なものを平気に壊してどうでもいいその一つの為に、人生を台無しにしてしまうことがあります。

■祈りと備えからくる冷静な態度 使徒21:30～40

千人隊長と兵士たちを見て、人々はパウロを打つのをやめました。そしてこの大暴動をみて千人隊長は二つの鎖につなぐという極悪人に対する方法でパウロを捕らえました。何万人が暴動になってローマ勢力を全て駆使して止めようとした大事件です。神様に従って行く人は、こんな規模で迫害されると言う事です。私達がやろうとする事は、この規模で誘惑されます。だから備えなければなりません。パウロはこの時も冷静でした。パウロは兵士たちにかつぎ上げなければこぼれました。その騒然とした状況の中パウロが千人隊長に、一言お話してもよろしいでしょうかと冷静に尋ねます。私達はパウロのように冷静にいられるでしょうか？大暴れるのではないのでしょうか。しかしパウロは冷静沈着でした。もしパウロが冷静で無かったら殺されていたかもしれませぬ。心を騒がせて行ってしまった行動が罪なのではなく、心を騒がせてしまう事が罪なのです。私達がどんな事があっても、冷静でいれる様に神様に祈りましょう。あなたは安かれ！と言われています。詩62:6『神こそ、わが岩。わが救い。わがやぐら。私はゆるがされることはない。』(詩62:6) いつも冷静でいることができるように祈り備えましょう。

さいごに

パウロは何を見ていたのでしょうか。そしてあなたはどこに遣わされますか？今あなたの目の前に起こっている出来事を感じて下さい。神様は私達の人生を作り変えようとしてきています。私達の過去のマイナスをも用いて私達が立ち向かう時、パウロの様に十字架の道行きに従う時に、起こる神の御業です。私達の人生の目的はこれからです。パウロも人生の目的を果たそうとしました。問題を目にして何もせずに生きるか？それとも神の前に立ち上がり冷静さを得て立ち上がる人生を選ぶのか？神様は私達にどちらを選ぶかを問いかけておられます。神様は必ずあなたの願いを成し遂げられます。しかしその時に私達も決断が必要です。もう戻らない！！過去とってしまった行動と同じことを繰り返さない決断する必要があります。この世の理不尽の中で過去と違う生き方を選ぶならば、私たちの人生の中で神の栄光を現わすことが出来ます。神様が示す方法を選べば選ぶほど私達の生き方はパウロが磨き込まれていったように研ぎ澄まされていきます。イエスキリストの姿をあなたの人生に現わすならばあなたのすることは祝福され多くの人から愛される人生になるでしょう。神はあなたを愛しています。だからこそ神はあなたが間違った道を歩むことを願われませぬ。

【ある無名兵士の詩】

『大きな事を成し遂げるために力を与えて欲しいと神に求めたのに謙虚を学ぶようにと弱さを授かった。偉大なことができるように健康を求めたのにより良きことをするようにと病気をたまわった。幸せになろうと富を求めたのに賢明であるようにと貧困を授かった。世の人々の賞賛を得ようとして成功をもとめたのに得意にならないように失敗を授かった。人生を楽しもうと命を授かった求めたのはひとつとして与えられなかったが願いは全て聞き届けられた。神の意にそわぬものであるにもかかわらず心の中に言い表せない祈りは全て叶えられた。私は、あらゆる人の中で最も豊かに祝福されたのだ』

(要約者:岡本英樹)

(2020年10月4日)